



報道発表資料の配付日時 4月 5日 (月) 16時30分

発表項目 (行事名)	日口さけ・ます漁業交渉の結果について		
記者レクチャー のお知らせ	(実施日時)	発表者	
		発表場所	
概要	<p>令和3年3月29日(月)から東京都で開催されていた、日本200海里水域における日本国漁船によるロシア系さけ・ますの2021年における操業条件等を定める「日口漁業合同委員会第37回会議」及びロシア連邦200海里水域における日本国漁船によるロシア系さけ・ますの2021年における操業条件等を定める「日口政府間協議」は、4月2日(金)に妥結しましたので、お知らせします。</p>		
参考			
報道(取材)に当たってのお願い			
他のクラブとの関係	同時配付	(場所)	同時レク
担当 (連絡先)	水産林務部水産局漁業管理課 国際漁業係 (担当者: 笠谷) TEL ダイヤルイン 011-204-5487 内線 28-402		

日口さけ・ます漁業交渉の結果について

令和3年3月29日から東京都において開催されていた「日口漁業合同委員会第37回会議」及び「日口政府間協議」は、4月2日に妥結しました。  
概要は以下のとおりです。

- 1 開催月日：令和3年3月29日（月）～4月2日（金）
- 2 場所：東京都（モスクワとのウェブ会議）
- 3 出席者
  - (1) 日本側：黒萩 真悟（くろはぎ しんご） 水産庁増殖推進部長（政府代表）  
ほか、外務省、水産庁、北海道庁及び関係団体の関係者
  - (2) ロシア側：サフチュク P.S. 連邦漁業庁副長官（ロシア政府代表）  
ほか、外務省、連邦漁業庁等の関係者

4 結果概要

(1) 日口漁業合同委員会第37回会議（日本200海里水域における操業）

- ① 漁獲量  
カラフトマス、ベニザケ、ギンザケ、マスノスケ 計1,550トン※（前年同）  
シロザケ 500トン（前年同）  
合計 2,050トン（前年同）  
※ ベニザケ、ギンザケ、マスノスケについては、3種合わせて1隻当たり1トン以内とする。

- ② 漁業協力費  
2億6,000万円～3億13万円の範囲で漁獲実績に応じて決定。  
（前年同。協力費の実績額は2億6,000万円。）

(2) 日口政府間協議（ロシア200海里水域における操業）

- ① 漁法等  
漁船1隻による曳き網（ひきあみ）での試験的な操業。（前年同）

- ② 漁獲割当量  
125トン（前年同）

うち ベニザケ	15トン（前年 25トン）
シロザケ	24トン（前年 25トン）
カラフトマス	81トン（前年 70トン）
ギンザケ	3トン（前年同）
マスノスケ	2トン（前年同）

- ③ 入漁料  
約2,433万円（前年同）

- ④ 操業期間  
令和3年6月1日から7月31日まで期間のうち36日間（前年は7月7日から7月21日まで）

連絡先：北海道水産林務部水産局漁業管理課

国際漁業係

代表：011-231-4111（内線28-406）

直通：011-204-5487

## 日ロさけ・ます漁業交渉 妥結に関する水産林務部長談話

日本200海里水域内における我が国さけ・ます漁船の操業条件及びロシア200海里水域におけるさけ・ます流し網代替漁法の試験操業の条件等を協議するため、3月29日から東京都で開催されていた「日ロ漁業合同委員会第37回会議」並びに「日ロ政府間協議」が、4月2日に妥結しました。

流通・加工・漁業資材などの関連産業が多く、道東地域の経済に大きく貢献してきたさけ・ます流し網漁業ですが、平成28年1月からロシア200海里水域内での操業が禁止となり、残された日本200海里水域での操業も近年の不安定な漁場の形成などにより、水揚げの不振が続いていることから、道では、日本200海里水域内のさけ・ます流し網漁業が継続できるよう、関係団体と連携しながら、漁業協力費の引き下げなどを国へ要望してまいりました。

道としましては、昨年と同じ内容の操業条件が確保され、4月10日からの漁期に間にあったことに安堵しており、引き続き、本漁業が円滑に操業できるよう対応してまいるとともに、国がロシア200海里水域内で行う試験操業において、流し網に代わる新たな漁法の開発に有用な成果が得られるよう期待しているところです。

交渉にご尽力されました政府代表や関係者の皆様方のご労苦に対し、深く感謝申し上げます。

令和3年4月5日

北海道水産林務部長 佐藤 卓也